様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　５ 月 ３１ 日現在

機関番号：１３３０１
研究種目：若手研究
研究期間：2019～2022
課題番号：１９Ｋ１４０５９

研究課題名（和文）人間関係・社会への参画・自己実現を構造的に把握する教育モデルの研究

研究課題名（英文）A Study on an educational model including human relationship, citizenship, and self-actualization

研究代表者
上森　さくら（UEMORI, Sakura）

金沢大学・学校教育系・准教授

研究者番号：３０６２３４０９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,400,000円

研究成果の概要（和文）：溝上泰子の生活論と教育論に着目して、自己実現に資する社会参画や人間関係の指導の在り方を把握するために、教育方法学における「当事者性」の概念を整理し、溝上泰子の教育論における「主体」概念を整理した。
その結果、溝上の教育論には「本質論的な主体概念」と「未来の軸にある未到達の主体概念」の２種の主体概念の表出傾向があり、「未来の軸にある未到達の主体概念」に基づいた学びの場をつくろうとした溝上の生活論/教育論を研究することが、「当事者になる」自己決定を促す関係性の研究に有用であったことを示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
溝上の教育論には「未来の軸にある未到達の主体概念」が確認された。これは禅哲学の影響を受けたもので、西洋哲学における「主体」概念とは異なるものであった。その上で溝上は、本概念を用いながら、自身の無限の可能性を自覚し、実現する行動を指導する方法を模索し、社会参画と人間関係の側面から生活環境の分析を行い、閉ざされた環境の枠組みを分析できるよう場づくりする方法論を提出していたことが明らかとなった。

研究成果の概要（英文）：In order to grasp the way of instructing social participation and human relations that contribute to self-actualization in MIZOUE's theory, the concept of "Awareness of Involvement" in educational methodology and the concept of "subject" in MIZOUE's theory.
As a result, MIZOUE's educational theory tended to express two kinds of subject concepts, " essentialistic subject concept" and "unattained subject concept on the axis of the future." It shows that studying MIZOUE's theory of life/education, which attempted to create a place of learning based on "unattained subject concept on the axis of the future," would be useful for research on human relationship and citizenship that promote self-determination to become involved.

研究分野：教育方法学

キーワード：溝上泰子　主体　当事者　生活論

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

初等・中等教育における特別活動で育成すべき資質・能力の三つの視点として、学習指導要領では人間関係・社会への参画・自己実現をあげている。この三つの視点の着目は生活指導論で長く検討されてきたものではあるが、これらをどのように構造的に把握し指導していくかという問いは未だ研究途上にある。

生活指導研究は今日に至るまでに集団論、フェミニズム論、インクルージョン論、ケア論、シティズンシップ教育論など様々な議論を取り込みながら発展してきた。先述の「人間関係・社会への参画・自己実現という視点をどのような構造で把握し、指導に反映させていくのか」という問いを明らかにしていくために、様々な分野で検討されてきた「自己実現と集団」論を生活指導の視点から整理し蓄積していくことは非常に重要である。

溝上泰子（1903-1990）は日本の思想界に「底辺」という言葉を流行させた人物とされる（天野正子『「生活者」とはだれか』中公新書、1996 年、109-123 頁）。溝上は 1950 年代から山陰地方の農村にすむ女性と交流を続け、「底辺」と見なされる経済的・社会的地位の低い集団にあって、重ねて男性中心社会においては顧みられる存在ではなかった女性の目から、生活者と彼女らが自己実現できる人間関係と社会参画のあり方を捉えようとした。このように、溝上は貧困や性差別と共に生きる人々を啓蒙の対象者として見るのではなく、自分の納得できる暮らしの中での自己実現を所属集団と対峙しながら自ら追求する存在として提示している。そして徹底的に個人の視点から集団の在り方を問い直す溝上の観点は、集団における教育目標を「一つの正しさ」「一つの理想」という画一的価値観で立てるのではなく、子どもたちそれぞれが多様な社会的背景を持ち、多様な価値観のもとに生活しているという前提に立つ生活指導研究の文脈と非常に親和性が高い。そのため、溝上の生活論・教育論を検討することで、人間関係・社会への参画・自己実現の構造的把握の手がかりを得ようとした。

２．研究の目的

本研究の目的は、社会的弱者の位置に置かれている子どもも含めた全ての子どもが自身の自己実現のために必要な社会を構想しながら、人間関係を構築しつつ社会へ参画するための教師の指導の在り方を構造的に把握できる教育モデルを溝上泰子の教育論を手掛かりに探ることにある。

本研究はこの問いの検討に資するものである。具体的には、溝上泰子の生活者との交流と生活論の構築において自己実現・社会参画・人間関係がどのように捉えられていたかを明らかにし、その具体的教育方法の接続を検討するものである。

３．研究の方法

現在の生活指導研究において、「当事者性」は自己実現、社会参画、人間関係について検討するうえで重要なキーワードである。「当事者性」を視点として、溝上の生活論や教育論を検討することで、社会参画や人間関係が自己実現にどのようにかかわるものとして溝上が捉えていたかについて鮮明することができると考えたため、①教育方法論における「当事者」概念の利用の有効性を検討し、②「主体」概念と「当事者」概念を比較検討し、③溝上の「主体」概念を検討することで、人間関係・社会への参画・自己実現の構造的把握を目指した。

４．研究成果

（１）フーコーやバトラーの主体形成論を検討し、①行動の前に主体を想定することはできない、②主体を形成するのは既にある言説や権力などの社会的アクターとその影響下での選択的行為の継続であり、それは継続的な服従的行為ともいえる、③主体化される存在／主体化に抵抗する存在の二項論ではなく、ひそかに追放され認知されずにいる存在があり、不平等な言説へのアクセス権は認知されない存在への依存により成り立っている、ことを確認した。

（２）生活指導研究において「当事者になる」ことに着目することが、①「当事者になる」という自己決定以前の周囲との関係性、②「当事者になる」/「当事者になることをやめる」という自己決定の両側面、③自己決定の契機をもたらす関係性などに焦点を当てることにつながることが示唆された。

（３）溝上の教育論には「本質論的な主体概念」と「未来の軸にある未到達の主体概念」の２種の主体概念の表出傾向があることが明らかとなった。後者は禅哲学の影響下にあることが予想されるものであるが、過去からは断絶されたものであり、現在においても離れた距離にあるものと示唆されている。またその瞬間瞬間の生き方によって到達できたり消失したりすることも示唆されており、伝統的な西洋哲学における「主体」概念とは異なるものであることが明らかとな

った。

（４）溝上は、「未到達の主体概念」を用いながら、自身の無限の可能性を自覚し、実現する行動を学習させようとしていた。そのために、公私にわたって、つまり社会参画と人間関係の側面を対象として、環境の分析を行い、閉ざされた環境の枠組みを分析できるよう場づくりに努めていた。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計3件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 上森さくら	４．巻 15
２．論文標題 溝上泰子の教育論における主体概念の検討―『わたしの教育原理』を対象として	５．発行年 2023年
３．雑誌名 金沢大学人間社会研究域学校教育系紀要	６．最初と最後の頁 57-66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計1件（うち招待講演　1件／うち国際学会　0件）

〔図書〕　計1件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関